

論

説

自らも白杖ゆびに頼る「点字毎日」の佐木理人記者が「いったい誰のもの」と憤慨していた（9月1日毎日新聞朝刊）。

マイナンバーの通知カードの郵送が始まった頃、独り暮らしの視覚障害者が12桁の番号の読み上げをヘルパーに頼んだら「プライバシーに関わる」と断られた。希望すれば自分の氏名が点

宮武剛

マイナ保険証

順序を間違えてないか

字表記されるようになった。大変無礼だ」「視覚障が、肝心の番号は点字付記害者でも暗証番号を入力ではない。総務省の担当者に聞いても「理由は分からない」という。大阪府堺市の点字図書館では職員が番号を読み上げる対応を始めた（要約）。

マイナンバーカードに医療保険証の役割を持たせる

「マイナ保険証」発行に際し、政府は関係者の意見を聴いた（2022年12月、議事録の要約）。

「添付の写真は目が開いていないからダメと言われている」

「ものをなくすのは日常茶飯事でカード紛失時のパツクアップ体制が心配」

みやたけ・ごう NPO法人福祉フォーラム・ジャパン副会長、学校法人・社会医学技術学院顧問

つた。（多機能の）カードは家族に保管してもらい、健康保険証用のサブカードを作ってほしい」（全国社会福祉法人経営者協議会）

このヒアリングに先立ち政府は「骨太の方針」に保険証廃止を明記し、河野太郎デジタル相は24年秋を目

途にマイナ保険証への切り替え方針を示した。マイナ保険証は、医療機の普及へ、最大2万円の商品交換ポイントをもらえる

さらに認知症高齢者ら向けに暗証番号の設定が不要なカードの配布も、この11月から始める。各種証明書のコンビニ交付などには使えないが、顔認証や目視で保険証として使える。

不可思議な経緯だ。本来は「情報弱者」の要望も聴いたうえ3〜5年の実施計画を定め難問を克服していく大事業だ。ところが、苦情や批判が出ると対策を練る泥縄式に陥った。

「システム障害やひも付けミスが相次ぐ中、マイナンバーカードやマイナ保険証の普及へ、最大2万円の商品交換ポイントをもらえる予定2兆1100億円のバラマキが敢行された。その0・1%分以下で点字番号付きカードが発行できるのではないか。」

（本紙論説委員）